

はじめに

『シラバス』は、共通教育科目、各学科専門教育科目、資格取得に関する専門教育科目の各授業科目について、必修・選択の別、単位数や開講期及び授業内容の概要が分かるようにまとめたものです。

ナンバリングについて

◇ナンバリングとは

ナンバリングとは、授業科目に内容・レベル等に応じた番号・記号を付し分類することで学習の段階や順序を表し、教育課程の体系性を示すものです。

◇本学のナンバリングの仕組みと具体例

すべての授業科目に系統ナンバーが付与され、本学では4桁の英数字から構成されています。これを参考にして系統的な学習を進めてください。

◆ 構 成 ◆

科目の分類		科目の段階（レベル）
学科	系	対象学年・開講期
1桁	2桁	1桁
L：共通	00固定	1：1年前期 2：1年後期 3：2年前期 4：2年後期
C：キャリア	01：ベーシック 02：ビジネス実務 03：デジタル情報 04：司書・公務員 05：医療事務 06：ファッション 07：製菓・カフェ 08：観光 09：健康スポーツ 10：ライフデザイン 11：フリー	
H：保育	01：保必 02：幼必 03：保幼必 04：保選択	

◆ 具体例 ◆

【キャリア開発総合学科 ビジネス情報・金融系 2年前期開講】科目の場合

C 02 3

学科

系

開講期

目 次

・ 共通教育科目	
・ 1 年生	4
・ 2 年生	34
・ キャリア開発総合学科 専門教育科目	
・ 1 年生	52
・ 2 年生	352
・ 資格取得に関する科目	
・ 司書資格に関する専門教育科目	522
・ 令和6年度カリキュラムマップ（ダイジェスト）	524
・ 索引	533

共通教育科目

『学習成果』

- 基礎的な学習スキルと幅広い教養を身につけ、社会生活にいかすことができる。
- 現代社会に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的行動をとることができる。
- 社会への貢献をめざして、自己啓発を続け、自他を慈しみ協働することができる。

『ディプロマ・ポリシー(DP)』卒業の認定に関する方針

■聖和学園短期大学のディプロマ・ポリシー

本学は、建学の精神である仏教の教えに基づき、「慈悲」の心、「和」の心を身につけ、「智慧」を修める人間教育を通して、地域社会に貢献する有能な人材を育てることを教育理念としている。学則に定める所定の単位を習得し、各学科の教育目標に沿った能力を身につけた学生には、卒業を認定し短期大学士の学位を授与する。

1. 職業人として必要とされる幅広い教養と専門的知識や技能を身につけている。
2. 課題を自ら発見し、その解決に向けて考察することができる。
3. 常に学び続け、身につけた知識や技能をいかして、地域社会に貢献しようとする意欲をもっている。
4. 社会の一員としての自覚と責任をもち、多様な人と協働することができる。
5. 他者の考えを受けとめ、自分の考えを状況に応じた方法を用いて的確に表現することができる。

共通教育科目シラバス目次

－ 1 年 －

●必修 ○選択

科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
			1前	1後			
聖和総合教育	演習	2	●	●	専任教員	L001	4
人間と仏教	講義	2	●		鎌田 文恵・鎌田 清寛	L001	6
文学入門	講義	2	○		関根 俊二	L001	8
心理学入門	講義	2	○		齊藤 樹里	L001	10
ボランティア論	講義	2		○	緑川 浩子	L002	12
社会福祉概論	講義	2	○		齋藤 美香	L001	14
ライフデザイン総合	講義	2		○	堀良平・君島 智子 齋藤 美香	L002	16
英語コミュニケーション	演習	2		○	川 辺 博	L001	18
フランス語入門	演習	2	○		マルシェンヌ・アンソフィ	L001	20
韓国語入門	演習	2	○		文 慶喆・黄 孝善	L001	22
体育理論	講義	1		○	大内 昭浩	L002	24
健康スポーツ	実技	1		○	大内 昭浩	L002	26
情報処理演習Ⅰ	演習	1	○		張山 裕江・若林 雅子	L001	28
情報処理演習Ⅱ	演習	1		○	張山 裕江・若林 雅子	L002	30
海外文化研修	演習	2		○	齋藤 美香・山本 信	L002	32

－ 2 年 －

科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
			2前	2後			
暮らしの中の憲法	講義	2		○	三 森 敏 正	L004	34
経済のしくみ	講義	2	○		衛 藤 絵 一	L003	36
暮らしと科学	講義	2		○	丸 山 穰	L004	38
環境と自然	講義	2	○		高 田 淑 子	L003	40
体育理論	講義	1		○	大内 昭浩	L004	24
健康スポーツ	実技	1		○	大内 昭浩	L004	26
海外文化研修	演習	2		○	齋藤 美香・山本 信	L002	32

「共通教育科目」について

本学の「共通教育科目」の目的は、建学の精神に基づく人間教育と、地域社会に貢献できる社会人を育成するため、幅広い教養を身につけ、ものを見る目を養い、物事を主体的、総合的に判断できる柔軟な思考力を培うことです。

そのため、以下の特色ある科目によって構成されています。

- 全学生の必修科目として「人間と仏教」と「聖和総合教育」があります。
「人間と仏教」は釈尊の教えの根幹をなす、自他を慈しむ『慈悲』の心とお互いを支えあう「和」の精神を養うために、講師の講話とともに毎時間の座禅によって自己を見つめる時間を設けています。
また、「聖和総合教育」は、豊かな人間性を育み生き方について考え、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高めることを目標とした、本学の特色ある科目です。少人数のゼミを基礎としながら、学年全体での取り組みを設けるなど、多様な内容となっています。
- 社会人としての一般教養を養う科目として、「文学入門」「心理学入門」があります。これらは他の人間を理解しコミュニケーション能力を向上させるためのものです。
一方で社会の仕組みを理解するための「暮らしの中の憲法」「経済のしくみ」、身近な科学や環境に興味を持ち、論理的思考方法を学ぶ「暮らしと科学」「環境と自然」を設置しています。
- 働くことの意味を考え、自分の人生を自分で選択することの重要性について理解を深める「ライフデザイン総合」を設置しています。「ボランティア論」や「社会福祉概論」は社会貢献を具体的な形で考える科目です。
- 国際化に対応するため、アジア、ヨーロッパを交互に目的地として、単なる観光ではなく学科に関連した施設での実習も取り入れた「海外文化研修」を設けています。
語学に関する科目としては基礎的な「英語コミュニケーション」「フランス語入門」「韓国語入門」が置かれています。
- 心身の健全な育成が重要との観点から、健康に暮らすことを学ぶ「体育理論」「健康スポーツ」を設置しています。保育学科の学生は必修です。
- 情報に関する科目としては「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を設置しています。ビジネスや保育実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学びます。

「共通教育科目」は「専門教育科目」を学ぶ上での基礎となるだけでなく、互いに関連をもって総合的に本学の目指す人間教育が達成できるよう、カリキュラムを構成しています。

科目名		聖和総合教育				担当者		専任教員				
区分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当教員のオフィスアワーまたは、メールアドレスを通じて連絡する。第1回目の授業以前に、メールアドレスについては告知がある。										
専門的 学習成果	①	コミュニケーション力の特性について学び、自身の能力を高めていくことができる。										
	②	建学の精神と地域の特性を理解し、それを踏まえた社会貢献ができる主体性・自主性を伸ばすための努力ができる。										
	③	自身の特徴を理解し、二次次・卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にするための道筋を明らかにすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	コミュニケーション力の特性について学び、自身の能力を高めていくこと、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人としての自立に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	自身の特徴を理解し、二次次・卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にするための道筋を明らかにする過程で、論理的思考を高め、自己理解を深め、社会人・職業人として協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	建学の精神と地域の特性を理解し、それを踏まえた社会貢献ができる主体性・自主性を伸ばす過程を通じて、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要		<p>本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者とともに慈しき尊重する和の心をもって社会に貢献する生きる力について考え、体験する機会が与えられる。また、社会人としての基本であり、人間が生きる上で最も重要なコミュニケーション能力について、鍛錬し高めていく。更に社会生活をする上での挨拶、慣習、儀礼などについても、最低限の素養を身に付けて、教養を深める。ゼミ活動および他ゼミ学生との交流を通じて、協働していく力を養う。各種活動を通じて、進路選択に向けた自立性の確立を目指す。</p>										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	2回実施し、各回50%を配点する。								
	平常点	80	各種活動における意欲、態度、姿勢が評価される。									
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①学生生活について重要な情報についての連絡を頻繁に行うため、常に、最新の正しい情報を入力するように配慮する。配布した資料については、熟読し、適格な理解をするように心がける。予習復習それぞれ週1時間程度必要になる。 ②レポートは添削し返却する。平常点にかかる観点については、随時コメントを行う。</p>										

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション/履修登録/役割分担の確認	履修理解と登録の妥当性	16回	授業内容	履修確認/各種資格の案内と取得に向けた計画策定	適切な履修計画への意欲 資格取得への積極性
	学習成果	授業の目的を適切に理解する。キャリアに必要な履修計画ができる。ゼミにおける自分の役割を意識し、積極的に取り組む。			学習成果	履修計画を直し、適切な選択を行う。合理的・計画的な資格取得に向けて計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	学生生活ガイドブック、シラバスを熟読する。			予習復習の内容	キャリアプランと学習プラン、資格取得プランの整合性を検討する。	
2回	授業内容	社会人マナー1.感謝の手紙	授業への積極性	17回	授業内容	学外研修修習行程案/聖期間の詳細説明	聖期間へのリーダーシップ チームワーク
	学習成果	手紙の形式的書き方を理解する。内容を考え、適切な文面を作成し、気持ちのこもったコミュニケーションを確立させる。			学習成果	学外研修の具体的なプランを理解し、自ら課題を立て取り組むための準備を加える。聖期間における自分のプランについて明確化する。	
	予習復習の内容	様々な手紙の書き方について調査し、見識を広める。			予習復習の内容	学外研修について関心事項の調査を深める。聖期間のアイデアを収集する。	
3回	授業内容	社会人マナー1.建学の精神・仏教行事の案内	建学の精神の理解 仏教行事への理解	18回	授業内容	聖期間準備。実行計画策定。	リーダーシップ、チーム ワーク
	学習成果	建学の精神について理解を深め、仏教行事の意義について知る。			学習成果	聖期間の展示・出店に向けた手続きを明確化し、計画を策定する。	
	予習復習の内容	建学の精神について改めて深く考え、どのように自分の学習・生活に活かすかを考える。			予習復習の内容	プロジェクトの適切な進め方の事例について調査し、一般化レベルと、ゼミ活動レベルへの応用について検討する。	
4回	授業内容	社会人マナー3.挨拶・言葉遣いの確認	授業への積極性	19回	授業内容	聖期間準備。各種手配完了。	
	学習成果	正しく美しい、口語表現について理解し、実践するための習慣を策定する。			学習成果	聖期間の展示・出店に向けた各種手配を完了させる。	
	予習復習の内容	参考となる人物を探し、発見し、まねる習慣を身に付ける。			予習復習の内容	活動において、体系的・網羅的に準備が整っているか、核討する。	
5回	授業内容	社会人マナー4.図書館利用方法	意欲的な態度	20回	授業内容	聖期間準備。最終調整。	
	学習成果	図書館の全般的システムを理解し、文献調査の適切な手続きについて演習する。			学習成果	聖期間の展示・出店に向け、細部をチェックし、万全の体制になるように機能させる。	
	予習復習の内容	各種授業を参考に、意図的に図書館を利用し、文献調査する習慣を養う。			予習復習の内容	本番に備え、天候、気温、他各種イベント状況などをチェックし、集客の予測を立てる。	
6回	授業内容	社会人マナー5.行動様式	授業への積極性	21回	授業内容	聖期間活動振り返り。	洞察力、内省力
	学習成果	機能的で美しい、行動様式について学び、練習し、身に付けるための計画を策定する。			学習成果	聖期間の活動を振り返り、計画的、実行性、成果を検証し、今後の活動に活かすための知見を得る。	
	予習復習の内容	参考となる人物を探し、発見し、まねる習慣を身に付ける。			予習復習の内容	活動の成れを記録としてまとめ、検証し、今後の就職活動における資料のひもととしてフィードバックする。	
7回	授業内容	学外研修の案内	学外研修への意欲	22回	授業内容	健康保険制度の仕組み	授業への積極性
	学習成果	学外研修の行程について案内がある。自らのキャリアと志向に合わせ、課題について自己研究を行う。			学習成果	健康保険制度の仕組みと自らの義務についての適切な理解を得る。	
	予習復習の内容	学外研修のロケーションについて調査する。			予習復習の内容	日本の健康保険制度、世界各地の制度を調査・比較し、正当性・妥当性について核討する。	
8回	授業内容	社会人マナー6.身体活動・協働活動の有効性	協働性	23回	授業内容	建学の精神再確認	授業への取り組みの真 摯さ
	学習成果	身体活動と、協働活動の意義、有効性について学ぶ。			学習成果	建学の精神について再確認し、自身のこれまでの行動を振り返り、必要に応じて、今後の在り方について調整する。	
	予習復習の内容	自らの身体能力について把握し、必要に応じて、体を動かす習慣を身に付ける。			予習復習の内容	知大(本学)設立の過程について調査し、時代の遷遷について理解し、将来の展望について想いを深める。	
9回	授業内容	社会人マナー7.命の大切さ	授業への意欲的な態度	24回	授業内容	基礎学力確認	学力向上への積極性
	学習成果	自他者の存在意義、命の意味について洞察し、自らの理解を深める。			学習成果	自身の基礎学力について、強み・弱みを認識し、今後、発展させるための計画を策定する。	
	予習復習の内容	命が大切に扱われていない事例などを調査研究し、大切にされるための道筋について考察する。			予習復習の内容	今後1年間の学習プランを立てる。	
10回	授業内容	身体を活用したレクリエーション	活動への意欲 協働力	25回	授業内容	自己分析	真摯さ
	学習成果	身体を活用したレクリエーションに取り組む。高い権を肯定する意義への理解を深め、チームワーク力を磨く。			学習成果	自分自身の傾向・志向を洞察し、自らの特徴について客観的立場から把握することができるようになる。	
	予習復習の内容	自らの身体状態を把握し、適切な活動量を把握する。			予習復習の内容	他人、賢人について調査し、自らの志向の実現化に向けた、実行計画を策定する。	
11回	授業内容	スポーツ大会	活動への意欲 協働力	26回	授業内容	履修書作成練習	真摯さ
	学習成果	自らの長所と短所を認識し、役割意識をもち取り組み、成果にこだわり真摯に取り組むことの意義を知る。			学習成果	履修書の形式的な記述と、自らを適切に伝える表現力を鍛えるための練習を行い、今後の就職活動で活かしていくための素材を得る。	
	予習復習の内容	自らの身体状態を把握し、今後の健康のコンディション作りのための指針を確る。			予習復習の内容	うまく記述できない部分について、教職員・専門家等に相談する。	
12回	授業内容	社会人マナー8.防犯意識・防犯対策	授業への意欲的な態度	27回	授業内容	進路選択にかかわる核討	自己開示
	学習成果	地域の犯罪実態や、最新の犯罪傾向について知り、防犯意識を高め、具体的な対策をとることができるようになる。			学習成果	自らの進路について核討し、計画を策定する。	
	予習復習の内容	住居周辺および住所周りのチェックを行う。不審な人間など地域の情報に敏感になる習慣をつける。			予習復習の内容	想定されるキャリアについて調査の範囲を拡大し、視野を広げる。	
13回	授業内容	社会人マナー9.電話の使い方・礼儀作法	授業への積極性	28回	授業内容	進路選択にかかわる相談	自己開示・傾聴力
	学習成果	機器を活用した場合と、対面で行う際のコミュニケーションについて、社会人として最低限の知見を得る。			学習成果	自らの進路について策定した計画を基に、担当教員からのフィードバックを得て、より良い計画づくりに参加する。	
	予習復習の内容	授業の学習内容について、一般向内容の情報収集を行い、練習を行う。			予習復習の内容	自らの進路について、教職員・専門家に相談し、他者の見解・知見を得る機会を設ける。	
14回	授業内容	聖期間概要案内	協働活動への意欲	29回	授業内容	2学年次におけるベシクセミの説明	授業への能動的取組
	学習成果	聖期間の意義について案内を受け、自らの進路についての構想を練ることができる。			学習成果	2学年次におけるベシクセミについて説明を受け、自らのキャリアや志向を考慮し、選択について考えることができる。	
	予習復習の内容	過去の事例をチェックしたり、近年の学園祭のトレンドについて調査し、自身の関心を高める。			予習復習の内容	自身の志向について再確認する。2学年次学生からの情報を収集する。	
15回	授業内容	前期の総括/夏季休暇期間の諸注意	授業への取り組みの真摯さ	30回	授業内容	1年間の総括/春季期間の過ごし方	積極性、計画力、真摯さ
	学習成果	前期の活動を振り返り、自身の思考・行動傾向についての理解を深める。夏季休暇中の計画を作成し、キャリアプランに活かす。			学習成果	1年間の総括・振り返り、自身の傾向・志向・特徴を明らかにし、今後の成長に役立つ洞察を立てる。	
	予習復習の内容	短大一年生が、有効に夏季休暇を過ごすための事例を調査し、自身の参考とする。			予習復習の内容	これまでの活動の存続を一覧化し、そのつながりについて精査し、これからの展望に役立つ特徴について深く核討する。	

科目名	人間と仏教				担当者	鎌田文恵・鎌田清寛						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中または hushiki@gmail.com にて行う。											
専門的 学習成果	①	仏教を身近にあるものとして理解を深め、活用できる。										
	②	仏教における諸行事、特に降誕会・成道会・涅槃会について理解し概要を説明できる。										
	③	仏教の基本的な教えについて理解し概要を説明できる。										
	④	日本における仏教の代表的な十三宗派について全体的に理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	本学の建学の精神である仏教の精神を理解し、日々の生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	坐禅などを通して自己を整えていくことができる。(専門的学習成果①に関連)										
授業概要	仏教の精神を基とする本学の建学の精神、即ち自他を大切に慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心、「智慧」を学ぶ人間教育という精神に基づいて、仏教を我々の身近なものとして学んでいく。勤行や坐禅といった体験を通し心身を整え自己を見つめると共に、仏教の基本的な教え、お釈迦様の生涯、日本に伝来して以後の仏教各宗派について学び、今後の学生生活や社会人生活、或いは人生において道標として活かせるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	講義9～15回目の内容について実施し、40%を配点する。								
		レポート										
		小テスト	40	講義1～7回目の内容について実施し、40%を配点する。								
	平常点	20	受講態度の他、坐禅、読経、仏教聖歌への取り組みにより評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
		『礼讃抄／修嵐林』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
		『仏教聖典』										
	大角修監修	『イラストでわかるやさしい仏教』			成美堂出版							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「般若心経」「延命十句観音経」の読経、及び仏教聖歌「三帰依文」「四弘誓願」の唱和を行うので、事前にテキスト「修嵐林」「礼讃抄」によく目を通し、最終的にテキストを見なくとも唱えられる・歌えるようになることが望ましい。(計60時間) また、毎回坐禅を行うので坐を組みやすい服装で出席すること。厳粛な気持ちで臨み、私語は慎んで受講すること。 ②坐禅は適時指導し坐相や取り組みを評価対象とする。お経や小テスト及び定期試験については講義内容をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、降誕」	8回目の授業中に60分ほど時間を取り小テストを実施する。テスト範囲は第1～7回目の講義内容、並びに仏教聖歌とする。
	学習成果	坐禅や読経の仕方について理解する。降誕会について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	『修嵐林』『礼讃抄』及び「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。		
2回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、出家そして成道へ」	
	学習成果	成道会、初転法輪について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。		
3回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、布教伝道の旅と涅槃」	
	学習成果	涅槃会について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。		
4回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三法印、四法印」	
	学習成果	三法印、四法印について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の51頁目～第二章「人と心のありのままの姿」をよく読んでおく。		
5回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、縁起」	
	学習成果	因縁生起や十二因縁について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。		
6回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、四諦八正道、中道」	
	学習成果	四諦八正道、中道について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。		
7回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三学、六波羅蜜」	
	学習成果	六波羅蜜について理解し概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の163頁目～第二章「実践の道」をよく読んでおく。		
8回	授業内容	勤行、坐禅、小テスト	
	学習成果	釈尊の生涯並びに仏教の基本的な教えについて理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」や1～7回目の講義で配布したプリントなどを整理し復習しておく。		
9回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、仏教の伝来と広がり」	
	学習成果	日本への仏教伝来と広がり概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	自分の家のお墓があるお寺や身近にあるお寺の宗派などを調べておく。		
10回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、奈良時代の仏教、南都六宗」	
	学習成果	奈良時代から現代へ至る法相宗、華嚴宗、律宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。		
11回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、天台宗・真言宗」	
	学習成果	天台宗、真言宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。		
12回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、融通念仏宗・浄土宗」	
	学習成果	浄土信仰、そこから生まれた融通念仏宗・浄土宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。		
13回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、浄土真宗・時宗」	
	学習成果	浄土真宗・時宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。		
14回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、臨済宗・曹洞宗・黄檗宗」	
	学習成果	禅宗と呼ばれる臨済宗・曹洞宗・黄檗宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。		
15回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、日蓮宗」	
	学習成果	日蓮宗について概要を理解し説明できる。	
予習復習の内容	授業全体の内容全体を改めて整理し復習しておく。		

科目名	文学入門				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	多様な文学作品について知識をもち、説明することができる。										
	②	深く自由に作品を読み込む方法を把握し、説明することができる。										
	③	文学作品を通して自身の考察力をとらえなおし、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	文学についての教養を身につけ、社会生活をとらえなおすことができる。(専門的学習習成①②③に関連)										
	(2)	言語表現について理解が深まり、言語を自覚的・選択的に用いることができる。(専門的学習習成①③に関連)										
授業概要	社会や人生について主体的にとらえなおすために、文学は格好のツールだと考える。知らなかった世界を疑似体験し、新しい視点の有効なことを教えてくれ、多様な価値観と向き合うことができる。しかし、忙しく生きる私たちは、本来の読書の楽しさや作品をじっくりと読み解く方法を忘れがちである。この授業では、さまざまなジャンルの作品を扱い、文学の知的探求について理解を深めてもらう。また、そのためにも、文学作品を的確に読み取る技術を確認していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	計10回実施し(授業内での執筆を含む)、独創性と論理的説明の観点で各回10点を配点する。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①～③で評価を行う。										
	(2)	は専門的学習成果①③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	U・エーコ		『ウンバルト・エーコ 諸説の森散策』						岩波書店			
	E・ブロンテ		『嵐が丘』						各社の文庫			
	森絵都		『カラフル』						文藝春秋			
	萩尾望都		『萩尾望都作品集9 半神』						小学館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業で扱う作品を、授業の前後に読んでおくこと(各回あたり2時間程度)。また、関連する作品も紹介するので、積極的に読み進めてほしい(計15時間程度)。これらの活動は、<発見>を求め、<全体>と向き合うような読書であること。授業外での執筆を課すレポート作成に計15時間程度。 ②提出されるレポートは講評を添え毎回、速やかに返却する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 「嵐が丘」を通し読むことを意識化	レポート①課題-グリム童話の再読に立ち会って(第3回に実施)	
	学習成果	読書行為を意識化でき、それについて説明できる。		
予習復習の内容	配布資料(グリム童話)を読み、諸読後の感想をまとめる。			
2回	授業内容	グリム童話再読① 「ヘンゼルとグレーテル」による主人公の探求		
	学習成果	柔軟な解釈の方法について手ごたえをもち、その意義の一端を説明できる。		
予習復習の内容	配布資料を再読する。			
3回	授業内容	グリム童話再読② 新たなテーマの追究		
	学習成果	さまざまな角度からグリム童話作品について説明できる。		
予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。			
4回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「となりのトトロ」		レポート②課題-授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	宮崎駿アニメを視聴する。			
5回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「千と千尋の神隠し」		レポート③課題-授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	江国香織作品を読んでおく。			
6回	授業内容	江国香織「すいかの匂い」を読む	レポート④課題-授業を通し考えたこと	
	学習成果	生産的解釈に自ら取り組み作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	同名短編集収録の他の作品を読む。			
7回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察①	レポート⑤課題-映画「阪急電車」を視聴して(第8回に実施)	
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。		
予習復習の内容	有川浩の原作「阪急電車」を読む。			
8回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察②		
	学習成果	作品に対する見解を深め説明できる。		
予習復習の内容	『植物図鑑』など作者の別の作品を読む。			
9回	授業内容	芥川龍之介「羅生門」を読む		
	学習成果	原典と比較し何かが加えられたのか理解し説明できる。		
予習復習の内容	芥川龍之介「雛」を読んでおく。			
10回	授業内容	芥川龍之介「雛」を読む		
	学習成果	視点の違いに注目し作品を理解し説明できる。		
予習復習の内容	太宰治「富嶽百景」を読んでおく。			
11回	授業内容	太宰治「富嶽百景」を読む		
	学習成果	美の創出の観点で作品を理解し説明できる。		
予習復習の内容	美の創出に関わる代表的な作品を紹介するので、読んでおく。村上春樹「蜩」を読む			
12回	授業内容	村上春樹「蜩」を読む		
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。		
予習復習の内容	同名短編集収録作品を読む。			
13回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞①	レポート⑥課題-演劇「彗星はいつも一人」を視聴して(第13回に実施)	
	学習成果	ジャンルによる表現の違いについて理解し説明できる。		
予習復習の内容	該当作品を視聴する。			
14回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞②		
	学習成果	全体を意識しながら作品の特徴について説明できる。		
予習復習の内容	同劇団の他の演劇作品を視聴する。			
15回	授業内容	まとめ 読書の方法及可能性についての整理		
	学習成果	講義内容全般について理解し説明できる。		
予習復習の内容	講義内容全般を整理する。			

科目名	心理学入門				担当者	サイ の 齊 藤 樹 里					
区 分	選択	2	単位	授業回数 15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業終了後に受け付ける。										
専門的 学習成果	①	心理学が扱うテーマについて説明できる。									
	②	人の知覚や認知における環境の影響について説明できる。									
	③	発達課題と心の問題について説明できる。									
	④	心理的問題への対処法について説明できる。									
	⑤	心理社会的課題について考察できる。									
	⑥	心理学的知識を日常生活に応用し生活をよりよくする態度を身につける。									
汎用的 学習成果	(1)	自己についての理解を深める。(専門的学習成果①②③④に関連)									
	(2)	現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②③④に関連)									
	(3)	より良い社会を構築しようとする態度を身につける。(専門的学習成果⑤⑥に関連)									
授業概要	本科目では、心理学をはじめて学ぶ学生のために心理学の基本的な理論や概念について網羅的に解説する。心理学とは心と行動に関する科学的学問であり、その背景には生理学的基盤がある。パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に人の考え方や行動のメカニズムを生活と関連付けて解説する。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてグループワークも行う。これらを通じて、受講者が自己および他者、社会について洞察できるようになることを目的としている。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験	55	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。							
		レポート									
		課題への取り 組み	45	授業の態度・関心・意欲を、毎回課す振り返りで評価を行う。							
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤⑥により評価を行う。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名					
		授業の中で紹介する。									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①適宜資料を配布するので、授業中に出てきた用語や関心のあるテーマについて各自で調べ知識を深めるようにすること。自ら理解を深めるために調べていると想定されることも試験範囲とする。 ②授業内でフィードバックする。										

		授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション		各授業内容に関する振り返りを、授業終了後に提出。
	学習成果	本講義での学習計画を把握し、心理学が扱うテーマを理解する。		
	予習復習 の 内 容	シラバスを読み、学習内容を確認する。 心理学についての自分なりのイメージをもつ。		
	授業内容	知覚と認知		
2回	学習成果	外界からの刺激をどう知覚、解釈するのかを体験し、説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の生活の中の事象と結びつけて考え、説明できる。		
3回	授業内容	行動と学習		
	学習成果	行動が生じるメカニズムについて理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分の行動パターンを振り返り、心理的に整理、今後の行動に生かせる。		
	授業内容	コミュニケーションと他者理解		
4回	学習成果	グループワークを通して、体験しながら他者理解を行う。		
	予習復習 の 内 容	グループワークのための事前準備をする。 その後の日常生活に学習内容を生かす。		
5回	授業内容	発達心理学① 乳児期～青年期		
	学習成果	ライフサイクルから見た適応の問題について説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の発達を振り返りながら、その重要性和現代社会について考える。		
	授業内容	発達心理学② 成人期～老年期・脳と心の関係		
6回	学習成果	ライフサイクルから見た適応の問題について説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の周りの大人をイメージしながら、今後の自分自身の発達についてイメージをもつ。		
7回	授業内容	パーソナリティの理論		
	学習成果	代表的なパーソナリティ理論を説明できる。		
	予習復習 の 内 容	生活特性の形成に影響を及ぼすものについて考える。		
	授業内容	自己理解 (エゴグラム)		
8回	学習成果	エゴグラムから見たパーソナリティについて理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内 容	実際にエゴグラムを体験し、エゴグラムから見た自分自身のパーソナリティを把握、今後の生活に生かせる。		
9回	授業内容	社会的認知バイアス① 対個人		
	学習成果	多様な非合理的な心理現象について理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の経験などを振り返り、今後の行動にどう生かせるかを考える。		
	授業内容	社会的認知バイアス② 対集団		
10回	学習成果	多様な非合理的な心理現象について理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の経験などを振り返り、今後の行動にどう生かせるかを考える。		
11回	授業内容	社会情動学習 (アサーティブな人間関係)		
	学習成果	アサーションについて理解し、体験する。		
	予習復習 の 内 容	ワークを通して自分のコミュニケーションのタイプを知る。 グループワークを通して、アサーティブな人間関係について考える。		
	授業内容	アドラー心理学		
12回	学習成果	アドラー心理学に触れ、自分自身の考え方を整理する。		
	予習復習 の 内 容	アドラー心理学の代表的な考え方を理解し、自分自身の考え方と照らし合わせながら、整理する。		
13回	授業内容	メンタルヘルス①		
	学習成果	ワークや理論を通して、精神面について考える。		
	予習復習 の 内 容	自分自身の刺激の受け取り方、考え方や感じ方、行動の仕方を振り返り、新たな考え方や行動を身に付ける練習をする。		
	授業内容	メンタルヘルス②		
14回	学習成果	ワークや理論を通して、精神面について考える。		
	予習復習 の 内 容	ストレスなどから生じやすい精神疾患について理解し、自分自身の対処法をそれぞれで考え、シェアする。		
15回	授業内容	まとめ		
	学習成果	これまでの講義内容を説明できる。		
	予習復習 の 内 容	これまでの講義内容を整理する。		

科目名	ボランティア論				担当者	緑川浩子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	ボランティアの意義を理解し、必要性を説明できる。										
	②	ボランティア活動が担う社会的役割を理解し、重要性を説明できる。										
	③	分野別ボランティア活動の基礎知識を理解し、実際の現場で活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ボランティア活動の歴史や原則を学ぶことを通して、社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ボランティア活動に期待される社会的役割を学ぶことを通して、社会貢献をすることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	幅広い分野(災害、児童、高齢者、障害児・者等)のボランティアスキルを身に付け、地域社会で支援活動ができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	現在、我が国は度重なる自然災害、児童や障害者に対する「いじめ」や「虐待」問題、さらには超高齢社会と言った、これまでにない過酷な状況に置かれている。このように生きづらい現代社会においてはボランティア活動の重要性と必要性は、益々高まっている。そのような背景を踏まえ、この講義では、日常の社会生活や実際のボランティア現場で役立つ基礎的知識と技術を実践事例などを活用しながら学習する。また児童の分野のボランティア活動として、毎年、児童養護施設で生活している児童へ手作りクリスマスカードを作成し、送付している。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	10	理解度、関心の高さで評価を行う。								
		提出物	20	丁寧さ、独創性で評価を行う。								
		平常点	10	授業態度・意欲で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	岡本 栄一		『ボランティアのすすめ』				ミネルヴァ書房					
	原田 正樹		『ボランティアを楽しむ～奉仕体験活動のアイデア & 指導案』				学事出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①報道や新聞、身の回りの出来事などを常にチェックし、自分に何ができるかを考え、ボランティア活動の必要性を認識するよう心がける(予習:週2時間程度)。 授業のなかで得た知識や感じたこと等についてレポートを課すので、授業内容を毎回振り返り自分なりに考察すること(復習:週2時間程度)。 ②提出されたレポートについては、適正な評価を行い返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(かかわる～「出会い」と「つながり」の意味)	
	学習成果	人との出会いの大切さを知り社会生活に活かすことができる	
	予習復習の内容	講義中の「キーワード」をまとめる	
2回	授業内容	なぜボランティアが必要とされるのか(歴史的流れから考察する)	
	学習成果	我が国のボランティアの発生とこれまでの主な活動が説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
3回	授業内容	ボランティア活動の基礎的性格と定義・原則	
	学習成果	ボランティア活動の意義とルールが説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
4回	授業内容	ボランティアを支える専門職とその役割(NPO法人、社会福祉協議会など)	
	学習成果	NPO、NGO、社会福祉協議会の活動を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
5回	授業内容	ボランティアコーディネーターと現場の実際	
	学習成果	ボランティアコーディネーターの業務内容を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
6回	授業内容	ボランティア活動の基礎的マナー	
	学習成果	現場での活動の際の考慮事項を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
7回	授業内容	傾聴ボランティア	
	学習成果	コミュニケーションの技術を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
8回	授業内容	災害ボランティア	
	学習成果	災害が起きたときの援助方法を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
9回	授業内容	児童の分野のボランティア(児童問題の理解、X'masカード作成)	
	学習成果	社会的養護を必要とする児童の実態を説明できる	
	予習復習の内容	児童養護施設に贈るX'masカードを作成する	
10回	授業内容	障害児・者の分野のボランティア	
	学習成果	障害児・者への支援ができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントをチェックする	
11回	授業内容	高齢者の分野のボランティア	
	学習成果	疑似体験を通して高齢者の理解と支援ができる	
	予習復習の内容	疑似体験で得たことをまとめる	
12回	授業内容	ボランティア活動の実際	
	学習成果	事例を通して、実際の現場を理解し、社会で活かすことができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントを整理する	
13回	授業内容	ボランティア活動における記録と評価	
	学習成果	活動の記録の仕方と使い方を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
14回	授業内容	スーパービジョン	
	学習成果	ボランティアの教育方法などを説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
15回	授業内容	まとめと振り返り	
	学習成果	これまでの学習で身に付いたことを説明できる	
	予習復習の内容	ノートや配布資料を整理する	

科目名	社会福祉概論				担当者	サイ 齋 藤 美 香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号、氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	社会福祉の基本的な仕組みを説明することができ、社会保障などのあり方を論ずることができる										
	②	社会福祉専門職者としての専門性と資質を述べることができ、自らの社会福祉援助観を講ずることができる										
	③	社会福祉を実践するうえでの人権擁護の視点や職業倫理を獲得することができる										
汎用的 学習成果	(1)	国や自治体の行政に対して社会福祉や社会保障のあり方について提言することができる（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	社会福祉の利用者に対して、その課題に誠実に対応することができる（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	利用者の課題解決に向けて、関係者や関係機関と十分に連携・協働することができる（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	社会福祉の意義・理念・方法等について学習し、現代社会を取り巻く社会福祉の実態（ニュースや話題）の理解および今日的課題への対処について考察を深める。また、社会福祉に至る歴史については、アメリカ、イギリス、日本などの歴史を概説する。さらには、社会福祉の法律や財政について理解を深め、生活保護、子ども家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、地域福祉の各領域の現状と課題を明らかにする。そして、社会福祉援助者、社会福祉専門職としての必要な倫理観、援助技術等について学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	これまでの学習内容に基づき、記述、論述式の試験を行い、評価を行う。								
		レポート	30	社会福祉の価値や倫理を問い、文脈や内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	大久保 秀子		『新 社会福祉とは何か 第4版』						中央法規			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、レジュメ、配布資料を活用し授業を進める。事前学習として、テキストを読み予習しておくこと。関連部分については新聞やテレビ、文献などから情報収集しておくこと。（予習：週2時間程度）事後学習としては、テキスト、配布物、記録ノートを読み返して復習すること。（復習：週2時間程度）②テキストの「章のまとめ」に沿ったディスカッションを行い、その内容についてコメント的に解説する。レポートについては、評価終了後に授業内で総括的に解説する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等）	
	学習成果	シラバスを精読し、学習内容を理解する	
2回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉とは何か	
3回	学習成果	社会福祉の定義を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
4回	授業内容	現代社会と福祉	
	学習成果	現代社会の福祉ニーズを説明できる	
5回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉の歴史（欧米）	
6回	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
7回	授業内容	社会福祉の歴史（日本）	
	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる	
8回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉の法体系	
9回	学習成果	法制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
10回	授業内容	社会福祉の行政と制度	
	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる	
11回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	権利擁護と成年後見制度	
12回	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
13回	授業内容	社会保障のしくみ（社会保障制度、年金、生活保護、医療保険、介護保険）	
	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる	
14回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	子ども家庭福祉（少子高齢社会、児童福祉法、子ども虐待）	
15回	学習成果	制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
16回	授業内容	障害者福祉（国際生活機能分類、障害児福祉計画、障害者福祉計画）	
	学習成果	制度の詳細を理解し、説明できる	
17回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	高齢者福祉（認知症の人の支援の変遷、認知症の基本）	
18回	学習成果	制度の詳細を理解し、説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
19回	授業内容	地域福祉（地域福祉の歴史、地域共生社会の実現、地域包括的ケアシステム）	
	学習成果	今日の地域の状況を踏まえて地域福祉の意義を説明できる	
20回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基本	
21回	学習成果	社会福祉援助技術の種類を理解し、社会的な支援を必要とする人への対応ができる知識と技術と心をつける	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
22回	授業内容	これからの社会福祉の動向とまとめ	
	学習成果	社会福祉の動向についてまとめること	
23回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	

科目名	ライフデザイン総合				担当者	堀 良平 ・ 君島 智子 ・ 齋藤 美香						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) Classroom (登録必須) での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	ライフデザインがなぜ重要なかを理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	ライフデザインを通して自身の人生を振り返るとともに、今後についても主体的に考えることができる。										
	③	人生における様々な時期を理解し、自分だけではなく他者への理解を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、一人の大人として社会に貢献することができる。 (専門的学習成果①②③)										
	(2)	ライフデザインを通して得た人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、他者と協働することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(3)	ライフデザインを通して得た専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展へ積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	ヒトの誕生から老後の暮らしまでそれぞれの段階について学ぶことで、今後予想されるライフイベントを具体的に検討し、より豊かなライフデザインが行えるようにしていく。誕生から現在までは過去の自分を振り返るとともに将来の子育てについて考えるものとし、就職、結婚、老後の生活などを学ぶ中では、将来の自分や、自分自身の家族について考えていくものとする。授業の進め方としては講義形式となるが、事前のワークシートの記入や授業中のグループワーク、事後のレポート提出など積極的に参加することを求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	80	毎回の講義で授業の感想を期日までに振り返りシートで提出するとともに、定期的に記述式のレポートを提出し、その内容を評価する。								
		グループ ワーク	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により行う。 (2) は専門的学習成果①②③により行う。 (3) は専門的学習成果①②③により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	テキストとなる講義資料、レジュメを配布する											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①準備学習等履修上の留意点 授業で配布する参考資料を活用し授業を進める。 <事前学習>テーマに沿った内容についてインターネット等を通して研究するとともに、事前に配布するシードがある場合はそれを記述する。(予習：週1時間程度) <事後学習>講義内で学習したことについて各自のライフデザインに合わせて振り返る。(復習：週1時間程度) ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点について振り返りシートを通して提出する。 授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、ここでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。 さらに講義内容によって出される事前・事後課題を提出する。
	学習成果	本講義での学習計画について把握する。	
2回	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。	ヒトの命の始まりから誕生に至る段階(胎生期)の理解 受精から出生までの巧みさや神秘に触れ、生命の尊重、生命の連続性について感じ取ることができる。 配布する資料又は視聴する資料に対し、感想をまとめる。
	授業内容	ヒトの命の始まりから誕生に至る段階(胎生期)の理解	
3回	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、授業内容を確認、整理する。	乳児期の理解：人間の育ちと愛着 生涯発達視点から、乳児期の重要性を理解する。基本的信頼感の獲得や愛着の形成について理解する。
	授業内容	乳児期の理解：人間の育ちと愛着	
4回	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	幼児期の理解：非認知能力と幼児期の育ち 生涯発達視点から、幼児期の重要性を理解する。非認知能力について理解し、幼児期の発達と遊びの意味を理解する。
	授業内容	幼児期の理解：非認知能力と幼児期の育ち	
5回	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	学童期の理解：自己効力感と学習のつながり 生涯発達視点から、学童期の重要性を理解する。小1プロブレム、9歳の壁等について理解し、自己効力感と学習のつながりを理解する。
	授業内容	学童期の理解：自己効力感と学習のつながり	
6回	予習復習の内容	ワークシート(中学・高校時代の振り返り)をまとめる。	青年期～中年期の理解①：アイデンティティの確立 自分自身の中学・高校時代を振り返りながら、現在の自分について考えることができる。
	授業内容	青年期～中年期の理解①：アイデンティティの確立	
7回	予習復習の内容	ワークシート(中学・高校時代の振り返り)をまとめる。	青年期～中年期の理解②：現在の自分に対する理解 短大での生活を振り返り、卒業までの目標を掲げることができる。 自分自身の卒業までの目標や考えをまとめておく。
	授業内容	青年期～中年期の理解②：現在の自分に対する理解	
8回	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	青年期～中年期の理解③：社会へ出ること(就職、自立) 卒業後社会に出るにあたり、自立する上でのプランを主体的に考えることができる。
	授業内容	青年期～中年期の理解③：社会へ出ること(就職、自立)	
9回	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	青年期～中年期の理解④：人生における選択(結婚、出産、転職) 人生における様々なライフイベントを理解し、自身のキャリアをより豊かにできる方法を検討できる。
	授業内容	青年期～中年期の理解④：人生における選択(結婚、出産、転職)	
10回	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	青年期～中年期の理解⑤：ライフプランを立ててみる 青年期～中年期の学習内容を理解し、自身のライフプランを立てることができる。
	授業内容	青年期～中年期の理解⑤：ライフプランを立ててみる	
11回	予習復習の内容	最新の時事を含めた政治問題をインターネット等を通して把握しておく。	青年期～中年期の理解⑥：現在の社会情勢(政治) 社会に出る上での現在の政治情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。 最新の時事を含めた政治問題をインターネット等を通して把握しておく。
	授業内容	青年期～中年期の理解⑥：現在の社会情勢(政治)	
12回	予習復習の内容	最新の時事を含めた経済問題をインターネット等を通して把握しておく。	青年期～中年期の理解⑦：現在の社会情勢(経済) 社会に出る上での現在の経済情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。 最新の時事を含めた経済問題をインターネット等を通して把握しておく。
	授業内容	青年期～中年期の理解⑦：現在の社会情勢(経済)	
13回	予習復習の内容	ワークシート(老年期の特徴)をまとめる。	老年期の理解①：老年期の身体面、心理面、社会面の特徴 加齢、老化による心身や社会的側面の変化の特徴を列挙できる。
	授業内容	老年期の理解①：老年期の身体面、心理面、社会面の特徴	
14回	予習復習の内容	ワークシート(健康長寿に向けての健康)をまとめる。	老年期の理解②：高齢者の健康の捉え方 高齢者の健康が注目されるようになった背景を理解し、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング等の考え方を説明できる。
	授業内容	老年期の理解②：高齢者の健康の捉え方	
15回	予習復習の内容	ここまで授業内容を復習する。	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	授業内容	まとめ、最終レポート作成 本講義を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	

科目名	英語コミュニケーション				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	英会話の基本表現を理解し、使うことができる。										
	②	英語で質問したり、自分のことを英語で説明できる。										
	③	英語学習をとおして異文化や外国語全般への関心を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	英語の運用能力を高め、社会生活で主体的に活用できる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(2)	外国語や異文化に理解と関心を深め、自分とは異なる文化的背景をもつ人とも協働できる。(専門的学習成果の③に関連)										
授業概要	英会話で使用頻度の高い表現に限定して、発音練習と置き換え練習をおこなう。日本人学生が誤りやすい、または習得に困難のある発音については、調音音声学的な観点から特に丁寧に指導する。並行して、基本的な文法事項を確認する。会話形式の練習では、単に声を出すだけでなく、セリフに感情をこめて「演じる」ことを求める。教科書に示されたサンプルの表現から発展して「同じ場面自分ならこう言う」という応用力・想像力を向上させる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	筆記試験により、内容の理解の程度と運用技能の水準を把握する。								
		レポート										
		小テスト	40	授業時間中に、復習のための小テストを3回程度実施する。また、応用力を測定するための小テストを随時おこなう。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果の③によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	妻島千鶴子	『ゼロからスタート 英会話』				Jリサーチ出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は実際に練習する時間と位置づけ、解説は必要最小限とする。教科書で使われている単語や文法事項は、前もって調べておくこと。付属の音声CD(スマートフォン用のアプリによりダウンロード可能)をあらかじめ聞き、耳を慣らしておくこと(予習:週2時間程度)。授業後は各自または友人と組んで練習すること(復習:週2時間程度)。 ②小テストおよび期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	確認・応用テストを毎回、小テストを第6回に実施
	学習成果	この授業の内容を理解するとともに、外国語学習の意義を自分なりに説明できる。	
2回	予習復習の内容	前もってシラバスを読み理解する。ガイダンスにもとづき学習計画を立てる。	
	授業内容	会話(1)はじめまして、…を紹介します	
3回	学習成果	初対面の人とのあいさつや、知人を誰かに紹介する表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	基本的なあいさつ表現を確認し、発音と「演技」を繰り返し練習する。	
4回	授業内容	会話(2)…をどう思いますか、趣味は…です	
	学習成果	印象・感想を尋ねる表現や、自分の趣味を説明する表現を使うことができる。	
5回	予習復習の内容	動名詞の機能を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(3)…にかわってください、予定は…に変更になります	
6回	学習成果	電話で呼び出しを求める表現や、予定の変更を伝える表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	日付の表現に必要な順序数詞を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
7回	授業内容	会話(4)…と伝えてください、…はどうですか	
	学習成果	伝言を残す表現や、待ち合わせの日時・場所を提案する表現を使うことができる。	
8回	予習復習の内容	現在完了の機能や使役構文を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(5)…しませんか、遅れてごめん	
9回	学習成果	相手を勧誘する表現や、謝罪の表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	二者択一を導く従属接続詞の機能を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
10回	授業内容	基本表現(1)…をありがとう、…に感謝します	確認・応用テストを毎回、小テストを第10回に実施
	学習成果	感謝を表す表現を状況に応じて使い分けられることができる。	
11回	予習復習の内容	前置詞が支配する語形を確認しておく。	
	授業内容	基本表現(2)よくやったね、おめでとう、…したい	
12回	学習成果	お祝いの表現や欲求を表す表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	would like to不定詞を接続する用法を確認しておく。	
13回	授業内容	基本表現(3)…だったらいいのに	
	学習成果	かなわない願望を語る表現を使うことができる。	
14回	予習復習の内容	wishに仮定法過去または仮定法過去完了の節を接続する用法を確認しておく。	
	授業内容	会話(6)席を予約したいのですが、お勧めはありますか	
15回	学習成果	レストランの予約をとる表現や、注文に必要な表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	丁寧な依頼の表現を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
16回	授業内容	会話(7)…どのように調理しますか。	確認・応用テストを毎回、小テストを第14回に実施
	学習成果	料理の材料や調理方法を尋ねる表現を使うことができる。	
17回	予習復習の内容	調理方法を表す動詞の語形を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(8)すばらしいパーティーですね、自己紹介させてください	
18回	学習成果	パーティーの席で頻出する表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	look / soundの用法と付加疑問文を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
19回	授業内容	会話(9)…を祝して乾杯しましょう	
	学習成果	パーティーの席で頻出する表現や否定の命令(禁止)の表現を使うことができる。	
20回	予習復習の内容	否定の命令(禁止)の表現を確認しておく。	
	授業内容	応答プラクティス 会話表現の確認	
21回	学習成果	これまでの会話表現の要点を確認し、より高度な表現が使える。	
	予習復習の内容	これまでの会話表現を整理し、「演技」を繰り返し練習する。	
22回	授業内容	基本表現(4)…してくれませんか、…してもいいですか	期末試験の内容に含める
	学習成果	依頼や許可を求める表現と、それに対する応答を使うことができる。	
	予習復習の内容	依頼や許可を求める表現を整理しておく。	

科目名	フランス語入門				担当者	マルシェンヌ・アンソフィ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後に対応											
専門的 学習成果	①	フランス語で初歩的な日常会話ができる。										
	②	フランスおよびフランス語圏文化について説明できる。										
	③	フランス語での自己表現や対話を通じ、フランス語でコミュニケーションが取れる。										
汎用的 学習成果	(1)	フランス語の基礎的な知識と表現方法を学び、社会や職業上で必要とされる場面での実践につなげることが出来る。(専門的学習成果①及び③に関連)										
	(2)	日本語以外の言語の学習を通じて、自己表現方法や論理的思考法を鍛錬しつつ、他者や他言語話者理解の観点から主体的に行動できる。(専門的学習成果①及び③に関連)										
	(3)	異文化に触れることでグローバルな視点を獲得し、時刻や地域社会を客観視しながら、その発展や問題解決に貢献することが出来る。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	世界中の多くの国々で使用され、国連や欧州連合などでも公用語の一つに選ばれているフランス語は、実用性と論理性の高いレベルで兼ね備えた言語である。当授業では初歩の日常的な会話表現を中心に、フランス語での簡単なコミュニケーションができることを目指す。発音・聴解・読解・文法・語彙・使用頻度の高い提携表現などあらゆる角度からアプローチし、総合的にフランス語の基礎を習得する。また、CD、DVD、映画等の視聴覚資料を適宜使用しながらフランスおよび、フランス語圏の日常生活や文化を紹介し、異文化への関心・理解を深めることを目的とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	第14回目の授業内で実施。選択式・記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	40	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『仏和辞典 (任意)』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容をよく復習し、声に出しながら反復練習する事 (予習・復習週4時間程度)。講義に集中して積極的に参加する事。 ②第15回授業内の期末試験後に開設を行う。(試験：1時間、解説：30分)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	初めてのフランス語とフランス	
	学習成果	フランスの発見、そして最初のフランス語の言葉を感じる。	
	予習復習の内容		
2回	授業内容	レッスン0：アルファベット、0から10の数字、クラスの中で使う表現	
	学習成果	綴りの理解、フランス語で数える、教室で使う表現が分かる。	
	予習復習の内容	ここでの学習内容は、続く全ての課に於いて使用されるので復習を通して慣れておく。	
3回	授業内容	レッスン1：挨拶、自己紹介、11から20までの数字	
	学習成果	フランス語の初歩的な単語・表現を使うことが出来る。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
4回	授業内容	レッスン1：être と avoir について、21から69までの数字	
	学習成果	年齢の言い方と国籍の言い方が分かる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
5回	授業内容	レッスン1：人を紹介する、70から99までの数字	
	学習成果	3人称単数の用法を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
6回	授業内容	レッスン2：職業、100以上の数字	
	学習成果	単語の女性形、男性形を区別できる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
7回	授業内容	レッスン2：～に住んでいる (er 動詞)	
	学習成果	動詞の活用を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
8回	授業内容	レッスン3：国籍・言語 (parler) と否定形	
	学習成果	フランス語の否定形を理解し用いることができる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
9回	授業内容	レッスン3：注文、支払いと定冠詞	
	学習成果	注文や依頼の表現と料金の提示が理解できる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
10回	授業内容	復習	
	学習成果	質問/返答、否定形、定冠詞、料金を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
11回	授業内容	レッスン4：目的語と否定形 (1)	
	学習成果	メールアドレスを交換できる。「これは何ですか」の表現を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
12回	授業内容	レッスン4：目的語と否定形 (2)	
	学習成果	「私は～を持っている/持っていない」の表現を理解する。兄弟姉妹について話すことができる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
13回	授業内容	復習：前期末試験に向けた準備	
	学習成果	1回から12回までの学習内容を網羅した復習の練習問題が解ける。	
	予習復習の内容	これまで学習してきた内容全て	
14回	授業内容	フランス映画鑑賞	
	学習成果	映画を通じ、フランス文化に親しむ。	
	予習復習の内容		
15回	授業内容	前期末試験	
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	韓国語入門				担当者	文 慶 喆 ・ 黄 孝 善						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各授業の前後に対応。										
専門的 学習成果	①	韓国語のハングル文字が書ける。										
	②	韓国語のハングル文字が読める。										
	③	韓国語で基本的な挨拶ができる。										
	④	韓国語の基本文型を理解し自己紹介等ができる。										
	⑤	韓国語を通じたコミュニケーションをとることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	勉強の方法を身に付けるとともに、国際化社会を生きる幅広い教養を身に付けることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	多様なコミュニケーション能力を養い、グローバルな時代を生き抜く力を付けることができる。(専門的学習成果③～⑤に関連)										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、共に生きる力をつけることができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	いま現代は「国際化」、「情報化」の時代です。この「国際化」、「情報化」の時代に生き残るためには外国語の理解が必要不可欠です。また、韓国語は日本からすると色々な意味で一番近い言語です。この授業では韓国語を初めて学ぶ人の為にハングルの読み書きから始めます。基本文型を中心にしながらも直ぐにでも使える表現の習得も目指します。授業では韓国ドラマや映画等も取り入れて行います。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		平常点	20	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
		小テスト	30	毎回小テストを課し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文慶喆 他		『かんたん！韓国語』				朝日出版社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業をやすまないこと。 声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングルについて	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語を学ぶ意義とハングルについて説明できる。	
	予習復習の内容	韓国語の歴史やハングルの仕組みについて	
2回	授業内容	ハングルの母音と子音の書き方と読み方	毎回小テストをする。
	学習成果	ハングルの母音と子音が書けて、読むことができる。	
	予習復習の内容	ハングル文字の書き方や読み方	
3回	授業内容	ハングルの音節の構成と読み方	毎回小テストをする。
	学習成果	日本語の音節と比較してハングルの音節と特徴が理解でき、読むことができる。	
	予習復習の内容	ハングル音節表の作りや読み方	
4回	授業内容	ハングル語彙の読み方と自分の名前をハングルで書いてみる。	毎回小テストをする。
	学習成果	ハングル文字が読めて、ハングルで自分の名前が書ける。	
	予習復習の内容	ハングルで自分の名前や身近な語彙をハングルで書いてみる。	
5回	授業内容	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現	毎回小テストをする。
	学習成果	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現を話すことができる。	
	予習復習の内容	簡単な挨拶表現や授業で使う韓国語表現を書きながら覚える。	
6回	授業内容	名詞文とその文型練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の名詞文とその文型の理解ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、練習問題を自分の力でする。	
7回	授業内容	自己紹介の実践会話と受け答え練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語で自己紹介ができ、その受け答えができる。	
	予習復習の内容	自己紹介ができるように練習し、その課題をする。	
8回	授業内容	名詞文の「-은」のタイプと漢語数詞	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の会話体が理解でき、漢語数詞で数えることができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、漢語数詞を書きながら覚える。	
9回	授業内容	名詞文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の名詞文の実践会話ができる。	
	予習復習の内容	実践会話を暗記し、その課題をする。	
10回	授業内容	時間表現と「～から～まで」の文型	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の時間表現ができ、「～から～まで」の応用会話ができる。	
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞を覚え、時間を使った課題をする。	
11回	授業内容	時間表現の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の時間表現の会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を覚え、その課題をする。	
12回	授業内容	助詞「～が」の文と名詞文の否定形	毎回小テストをする。
	学習成果	主語「～が」を使った文とその否定形の会話ができる。	
	予習復習の内容	韓国語の否定形の練習とその課題をする。	
13回	授業内容	名詞文の否定形の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の否定形を使った実践会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、その課題をする。	
14回	授業内容	指示代名詞を使った疑問文とその受け答え	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の指示代名詞を使った質問と答えができる。	
	予習復習の内容	韓国語の指示代名詞を日本語と比較しながら理解し、その課題をする。	
15回	授業内容	指示代名詞の疑問文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の指示代名詞による会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、まとめの課題をする。	

科目名	体育理論				担当者	大内昭浩						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に教室にて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	体育理論の様々な科学的知識を理解し、実践できる。										
	②	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法や取り組み方など健康維持増進のための方法を実践できる。										
	③	一生涯充実した生活を送るための生活習慣の見直しと自分自身のライフスタイルの再構築を計画できる。										
	④	自分自身の健康管理のみならず、周囲の人々をサポートを提言できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体育理論の科学的知識を理解し、健康に対する意識を高め社会生活にいかすことができる。										
	(2)	現代社会における運動の意義・役割を理解し、継続的に運動を導入する方法を検討することができる。										
	(3)	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法を学び、より安全な取り組み方を理解する。										
授業概要	現代社会において私たちが良好な健康状態を保ち生活するためには、日常生活のなかで食事や睡眠、運動などのバランスに留意することが必要である。本授業においては、運動が心身に与える影響を理解し、さまざまな科学的・合理的知識を得ることで生涯にわたって「いかに長く健康を享受し、生き甲斐をつくり、豊かな老後を過ごすか」といった生活の質の向上と「健康寿命の延伸」につながる運動の導入方法について理解する。そして、生涯にわたって継続的に豊かなスポーツライフを送るために必要な各個人の資質を高めることをねらいとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	生活習慣の見直しと改善策を具体的な例を挙げて自分自身の意見を述べているかを観点に評価を行う。								
		平常点	10	積極的な授業態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果②③で評価する。 (3) 専門的学習成果②③で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	公益財団法人 日本体育協会	『公認スポーツ指導者養成テキスト』				社走狗						
	佐藤祐造 柴田英治	『テキスト健康科学』				南江堂						
	大学生の健康・スポーツ科学研究会	『大学生の健康・スポーツ科学』				道和書院						
	財団法人 健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者テキスト』				南江堂						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、配布される参考資料をもとに進めていくかたちとなるため授業の中で配布された資料をもとにした復習を積極的に行うこと。また、今回の授業内容とされる範囲を予告するので関係するものに対する予習し、理解を深めておくこと。(予習復習：4時間程度) ②単元ごとの課題をもとに評価・解説し、全体に対するフィードバックし振り返りの時間を設ける。筆記試験答案用紙は後期授業開校期に返却する。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：スポーツの意義役割	本授業の振り返り（まとめ）：現代社会の変化
	学習成果	現代社会の変化の中でのスポーツ活動の意義・役割を理解する。	
予習復習の内容	スポーツの意義・役割を自分自身の言葉で整理し、カテゴリーごとにわけてまとめる。		
2回	授業内容	身体活動と心身の健康	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：スポーツの意義・役割
	学習成果	運動が心身に与える影響を理解し、自分自身の生活習慣を見直す。	
予習復習の内容	自分自身の生活習慣の見直し、具体的な例と改善策を挙げる。		
3回	授業内容	運動とトレーニング	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：心身の健康管理
	学習成果	トレーニングの基本的なルールや効果的な進め方等運動実践に関する理解を深める。	
予習復習の内容	自分自身が興味がある運動を探し、実際に取り組む手段を検討する。		
4回	授業内容	運動技能の習得と運動学習	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：トレーニングの基礎的ルール、運動方法
	学習成果	運動の効果的な学習方法、学習過程を理解し、運動の楽しむ方法を考察する。	
予習復習の内容	運動学習を理解し、効果的学習について具体的な例を挙げるようにする。		
5回	授業内容	運動とからだの発育発達	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：運動の学習過程
	学習成果	運動と発育発達の関係について理解し、適切な運動の導入方法を理解する。	
予習復習の内容	心身の発育発達に合わせた働きかけ、指導方法について考察する。		
6回	授業内容	運動と安全 (1) (特殊環境下での活動、対策)	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：発育発達に合わせた運動導入
	学習成果	暑熱環境下、寒冷下における運動の安全な取り組み方と予防、対策を理解する。	
予習復習の内容	スポーツ環境、対象者に合わせた予防・対策について考察する。		
7回	授業内容	運動と安全 (2) (スポーツ医学、応急処置)	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：特殊環境下での対策
	学習成果	スポーツ現場で起きやすい内科的障害、外科的障害に対する応急処置を理解する。	
予習復習の内容	対象者、スポーツ種目ごとの予防・対策について考察する。		
8回	授業内容	まとめ：生涯スポーツの在り方	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：スポーツ医学これまでの学習内容の中から確認としての総合的な筆記試験を実施する。配布資料をもとに復習しておくこと。
	学習成果	現代社会の生涯スポーツに対する考え方を理解する。	
予習復習の内容	自分自身に合わせた豊かなスポーツライフの設計の考察する。		
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	健康スポーツ					担当者	大内昭浩					
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に体育館アリーナにて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	様々なスポーツを通しての技術・ルールの理解のみならず、人間としてのマナー・エチケットに対する考えを育む。										
	②	基本技術を習得し、試合を通してスポーツ活動を親しむための総合的な運動技能を高める。										
	③	生涯にわたって、スポーツ活動を楽しむための創意工夫を行い、より積極的な意欲・資質を高める。										
	④	様々なスポーツ活動を通して、仲間と協力してグループ活動を行い人間関係の向上を図る。										
	⑤	自己やチームの課題を見つけて解決しようとする前向きな態度を養う。										
汎用的 学習成果	(1)	各スポーツ種目のルール・技術、活動する際のマナーに対する理解を深める。										
	(2)	様々なスポーツ活動を通して、活動を親しむための総合的な運動技能を高め、生涯にわたって運動を親しむための土台づくりをする。										
	(3)	個人・集団での課題を達成することでスポーツ活動を通しての人間関係の向上を図る。										
	(4)	健康の維持増進のためのスポーツ活動の取り組みについて理解する。										
授業概要	本授業においては、健康づくりのためのスポーツ・身体活動の意義・役割について各種目ごとの特徴をふまえて解説し、実技を通して、実際にその素晴らしさを体験する。試合形式での活動の中では、学生同士協力することで楽しさや喜び、悔しさを共に味わい、生涯にわたって継続的にスポーツ活動を親しむ能力や意欲、資質を高め、良好な人間関係を築く方法を検討する。更にスポーツの基本的な技能、ルール、マナーを身に付けることでスポーツに対する理解を深め、様々な運動の魅力を知り、実践による心身の健康維持増進に努めるための創意工夫をするなど実践力を身に付けていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	設定されたテーマに沿ったレポート課題の提出（提出期限厳守）について評価する。								
		平常点	30	個人、集団での活動に対する取り組みの姿勢・態度、他者への働きかけ等授業効果の向上への貢献（リーダーシップ含む）、出席状況による評価とする。								
		技能・知識の習得度	40	基礎的な技能向上に向けた積極的な態度、課題達成に対する積極的な態度、試合運営管理（審判活動）について評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果①②③で評価する。 (3) 専門的学習成果④⑤で評価する。 (4) 専門的学習成果③④⑤で評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①気候・内容に合わせた服装・シューズ（体育館：インシューズ）を準備し、アクセサリ類ははずして受講すること。活動中は、各種目のルールを理解し、仲間と協力し審判を含めた試合の管理運営を行いつつ、目標・課題に沿って積極的に参加すること。気象条件・人数に合わせた活動内容の変更等が生じる場合があることを理解したうえで参加すること。時間外学習としては、各種目のルールの確認、技能・体力の向上に努めた活動など行うこと。（予習復習：週1時間程度） ②各時間ごと課題に対するの振り返りを行い、次の活動に活かすことができるようにする。また、評価基準の1つであるレポート課題は提出期限を厳守すること。（最終回に添削後返却）											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：運動の準備（ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法、グループ分け）	運動の進め方・方法の理解
	学習成果	授業の目的・進め方（活動内容と授業内の運動の進め方）を理解し、実施できる。	
	予習復習の内容	運動の方法・進め方を確認し、今後の活動のために日常生活の活動量を増やす努力をする。	
2回	授業内容	レクリエーション活動（コミュニケーションゲームと運動の準備）	運動に対する心身の準備（レクリエーション活動への取り組み）
	学習成果	レクリエーション活動を通して、スポーツ活動を安全に取り組むための心身の準備を整える。	
3回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ニュースポーツ（インディアカ）とは何か理解を深め、ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
4回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(2) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための更なる準備を整える。	
5回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(3) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	新たなチーム編成の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
6回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールのルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
7回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) 試合形式での実施	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールの試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
8回	授業内容	球技（種目選択）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	選択した球技種目のルールを理解し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	選択した球技活動のルール、基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
9回	授業内容	球技（種目選択）(2) 試合形式での実施	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
10回	授業内容	バドミントン・卓球 (1) 2つの種目のルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	バドミントン・卓球の取り組み 「レポート課題」心身の準備 自分が興味のあるスポーツ種目の歴史・ルール・特徴など調べてレポート提出する。（提出期限厳守）
	学習成果	2種目のルールを理解し、基本的な技能を習得し、それぞれの簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
11回	授業内容	バドミントン・卓球 (2) 基本技能の練習、試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	試合の流れを理解し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
12回	授業内容	バドミントン・卓球 (3) 試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	グループ分けの方法について検討し、試合を円滑に進めるための方法を検討する。	
13回	授業内容	バドミントン・卓球 (4) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
14回	授業内容	バドミントン・卓球 (5) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
15回	授業内容	バドミントン・卓球 (6) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	各個人、チームごとに活動に対する総合的な振り返りをする。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	

科目名	情報処理演習 I				担当者	張 山 裕 江 ・ 若 林 雅 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	パソコンを使ってドキュメントを作成し、そのファイル管理ができる。										
	②	ワープロソフトウェア（Word）の基本操作を習得し、見やすいビジネス文書を作成できる。										
	③	表計算ソフトウェア（Excel）の基本操作を習得し、表やグラフを効率的に作成できる。										
	④	図表やグラフ等、情報を確かな方法で表現できる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンの基本操作に関する学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識や技術を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	パソコンを使ったドキュメントの作成において、情報を的確に伝える工夫をすることを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(3)	説得力のあるドキュメントを作成するために、自ら課題を見出し、その解決に向けて習得した専門的知識や技能を活用することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	本授業は、パソコンを使用するために必要となる基礎的な知識や技術の習得を目的とした演習を行う。主に、ワープロソフト（Microsoft Word）、表計算ソフト（Microsoft Excel）の基本操作を通して、ビジネス文書に関する基礎知識や、データを管理する方法について学習していく。文字情報だけでなく、図や表、グラフ等が挿入されたグラフィカルなドキュメント作成を通し、適切で効果的な情報の表現方法を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		試験	50	全15回の授業内容に基づき、理解が定着し正しく操作できているかの確認試験を行う。提出されたデータの内容により評価する。								
		課題	40	4回実施し、各回10%を配点する。単元ごとの理解が定着し、正しく操作できているか、提出されたデータの内容により評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	杉本くみ子／大澤栄子	『30時間アカデミック Word & Excel 2019』				実教出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①積み重ねの授業となるため、次の授業までに内容を自ら補習しておくこと。単元ごとに課題を課し、その内容を評価の対象とするので、復習（授業の振り返り・例題の完遂）をしっかりと行うこと（週1時間程度） ②提出課題は、速やかに評価した後、返却するとともに解説を行う。 各自 USB メモリを準備し、データの保存等に活用することが望ましい。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	Word (1)：基本操作①/ビジネス文書の基礎知識/入力、保存、印刷	演習への取り組み 第3回目に課題作成（表を含むビジネス文書作成の基本操作について）
	学習成果	ビジネス文書の基本的な形式や文章表現を理解し、文章の入力及びデータ保存や印刷の操作ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字の入力・変換及びデータの保存を含むファイル管理操作を確認する。	
2回	授業内容	Word (2)：基本操作②/文字書式、段落書式、表の挿入と編集	
	学習成果	文字や段落に対する書式設定や表挿入ができ、基本的なビジネス文書が作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字や段落の書式設定や表挿入と編集の操作を確認する。	
3回	授業内容	Word (3)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Word (1)～(2) までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	ビジネス文書作成における基本操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
4回	授業内容	Word (4)：表やリストの利活用（表変換・分割・行と列・セル余白・箇条書き・段落番号・レベル等）	演習への取り組み 第7回目に課題作成（表やリスト、グラフィック要素を活用した文書について）
	学習成果	情報の表現としての表やリストの特徴を理解し、自在に編集ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表やリストの効率的な編集操作を確認する。	
5回	授業内容	Word (5)：グラフィック要素の利活用（ワードアート・SmartArt・画像・3Dモデル等）	
	学習成果	各グラフィック要素の特徴を理解し、訴求力のある文書作成ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各グラフィック要素について挿入、編集する操作を確認する。	
6回	授業内容	Word (6)：文書の管理（ページ背景・アクセシビリティ・エクスポート）、他アプリデータの利用	
	学習成果	他者や他アプリとの間でデータ共有を理解し、作成した文書に適切な処置ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、データ共有に関する知識と操作を確認する。	
7回	授業内容	Word (7)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Word (4)～(6) までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	表、リスト、グラフィック要素を効果的に活用する方法について確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
8回	授業内容	Excel (1)：基本の表作成/入力、四則演算、基本関数、行高・列幅、セル書式、ページ設定、保存	演習への取り組み 第10回目に課題作成（表作成の基本操作について）
	学習成果	データを入力し、基本的な式や関数を使って計算を行い、表を整えることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ワークシート上での計算方法について確認する。	
9回	授業内容	Excel (2)：表の編集/書式の一括設定、スタイル、挿入と削除（行・列・セル）、絶対参照	
	学習成果	効率よくセル書式を設定でき、表のレイアウトを自在に編集できる。セルの絶対参照と絶対参照を使い分けることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、書式やレイアウトなど表の体裁を整える方法について確認する。	
10回	授業内容	Excel (3)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Excel (1)～(2) までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	基本的な表を効率よく作成する方法について確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
11回	授業内容	Excel (4)：知っておきたい関数/数を数える、条件処理	演習への取り組み 第14回目に課題作成（知っておきたい関数、グラフ作成と印刷の設定について）
	学習成果	関数を使って数を数えたり、条件判断を行い、その結果に沿った処理を行うことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、数を数える関数、条件処理する関数の使い方を確認する。	
12回	授業内容	Excel (5)：知っておきたい関数/文字列の処理	
	学習成果	文字列を対象にした関数を使って、データを加工することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字列を取り出す関数や、文字列を整える関数について確認する。	
13回	授業内容	Excel (6)：グラフの基礎知識/グラフ作成（棒グラフ・円グラフ・他）、ページレイアウト	
	学習成果	表のデータをもとに棒グラフや円グラフを作成して書式設定できる。ページレイアウトを整え印刷できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表の数値情報を意図に適したグラフで表現する方法について確認する。	
14回	授業内容	Excel (7)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Excel (4)～(6) での授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	基本的な関数の使い方、及び、意図を反映した効果的なグラフの作成、シートやグラフに関する印刷の操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
15回	授業内容	まとめ	確認試験 全15回の学習内容について理解し、正しく操作できるかを問う。第15回の授業内にて実施。
	学習成果	基本的なビジネス文書や、表、グラフィック要素が挿入された文書を作成することができる。基本的な計算と関数を利用した表やグラフを作成することができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全般について、整理、確認する。	

科目名	情報処理演習Ⅱ				担当者	張 山 裕 江 ・ 若 林 雅 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	パソコンを実務レベルで使用できる。										
	②	ワープロソフトウェア（Word）の応用操作を習得し、表現力・説得力のある文書を作成できる。										
	③	表計算ソフトウェア（Excel）の応用操作を習得し、的確なデータ収集・集計・分析ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンを実務レベルで使用するための学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識や技術を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	パソコンを使ったドキュメントの作成において、情報を的確に伝える工夫をすることを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	パソコンを使ったドキュメント作成やデータ分析において、自ら課題を見出し、その解決に向けて習得した専門的知識や技能を活用することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	<p>本授業は、パソコンのスキルを、ビジネスの現場を意識した実践レベルに高めることを目的とした演習を行う。主に、ワープロソフト（Microsoft Word）、表計算ソフト（Microsoft Excel）を応用的に利用する方法について学習していく。Wordでは、紙面が自由にレイアウトされた文書や長文レポートの作成を通し、適切で効果的な情報の表現方法を学ぶ。Excelでは、テーブル機能やインポートによる的確なデータ収集や分析、簡便なデータの視覚化、関数を使用した別表参照とエラー回避といった実践的な手法を学ぶ。</p> <p>さらに Word、Excel とも、他者と共同作業するための便利な機能や設定についても学習する。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		試験	50	全15回の授業内容に基づき、理解が定着し正しく操作できているかの確認試験を行う。提出されたデータの内容により評価する。								
		課題	40	4回実施し、各回10%を配点する。単元ごとの理解が定着し、正しく操作できているか、提出されたデータの内容により評価する。								
		平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	杉本くみ子／大澤栄子	『30時間アカデミック Word & Excel 2019』				実教出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①積み重ねの授業となるため、次の授業までに内容を自ら補習しておくこと。単元ごとに課題を課し、その内容を評価の対象とするので、復習（授業の振り返り・例題の完遂）をしっかりと行うこと（週1時間程度） ②提出課題は、速やかに評価した後、返却するとともに解説を行う。 各自 USB メモリを準備し、データの保存等に活用することが望ましい。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	Word (1)：復習問題作成	復習問題作成（基本的なビジネス文書について）
	学習成果	基本的なビジネス文書を作成でき、入力・編集・保存・印刷の一連の操作ができる。	
	予習復習の内容	ビジネス文書の基本知識と、作成の基本操作を確認する。	演習への取り組み 第4回目に課題作成（自由なレイアウトの文書について）
	授業内容	Word (2)：ページ設定、紙面レイアウトの工夫（表・段組み・テキストボックス）	
2回	学習成果	文書内に段組みやテキストボックスを設定し、縦書き横書きが混在した雑誌形式の文書を作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、細かなページ設定と紙面レイアウトの工夫に関する操作を確認する。	
3回	授業内容	Word (3)：図や図形の配置テクニック、互換性チェックと下位保存	
	学習成果	図や図形を自由なレイアウトで配置できる。またテキストを他ファイルから取り込むことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、図や図形の配置テクニック、他ファイルからのテキストの取り込みについて確認する。	
	授業内容	Word (4)：(復習) 課題作成	
4回	学習成果	Word (2)～(3) での授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	雑誌記事のように自由なレイアウトの文書を作成するテクニックを確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
5回	授業内容	Word (5)：長文機能（表紙・ヘッダーフッター・スタイル・検索置換等）、参考資料（脚注・資料文献・引用文献・目次・文書のプロパティ）	演習への取り組み 第7回目に課題作成（長文レポート、他ユーザーと共同作業する文書について）
	学習成果	表紙、見出しスタイル、目次、引用文献などの機能を駆使し、長文を効率的に作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な長文作成に関する各種機能と操作を確認する。	
	授業内容	Word (6)：コメント（追加/削除・閲覧/返信/対処）、変更履歴（記録/削除・閲覧・承諾/元に戻す）、ドキュメント検査、文書の共有	
6回	学習成果	コメント機能や変更履歴機能を操作できる。印刷時の設定や文書共有設定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、他ユーザーとの共同作業時に便利な機能の目的と操作を確認する。	
7回	授業内容	Word (7)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Word (5)～(6) での授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	長文を効率よく作成する操作を確認する。共同作業時に便利な機能の目的と操作について理解を深める。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
	授業内容	Excel (1)：テーブル機能（テーブル作成・テーブル名・テーブルスタイル・集計行等）、データベース機能（並べ替え・フィルター）	
8回	学習成果	テーブルの機能について理解し、並べ替え、フィルター、集計に活用できる。	演習への取り組み 第10回目に課題作成（テーブル機能、表示のカスタマイズや共同作業の設定について）
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルの作成や、並べ替えやフィルター操作を確認する。	
9回	授業内容	Excel (2)：ブック内移動（名前定義、ジャンプ、ハイパーリンク等）、表示のカスタマイズ（固定・分割・整列等）、印刷の設定、共同作業の設定（エクスポート他）	
	学習成果	名前やリンク設定などでブック内を簡単に移動したり、作業効率を上げられるようにウィンドウの表示を工夫できる。また印刷や共同作業の設定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、作業を効率化する方法や印刷、共同作業のための操作を確認する。	
	授業内容	Excel (3)：(復習) 課題作成	
10回	学習成果	Excel (1)～(2) までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	テーブルを用いたデータベース機能の操作について確認する。また、複数のシートやブックを効率よく使うテクニックを確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
11回	授業内容	Excel (4)：データインポート（テキスト・CSV）、データの視覚化（スパークライン・条件付き書式）	演習への取り組み 第13回目に課題作成（VLOOKUP、IF、IFERROR等の関数や、スパークライン、条件付き書式について）
	学習成果	テキストや CSV をインポートできる。またスパークラインや条件付き書式でデータの視覚化を図ることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、他ファイルからのデータインポートの操作や、データを簡単に視覚化できるスパークラインや条件付き書式について操作を確認する。	
	授業内容	Excel (5)：別表参照（VLOOKUP）、エラー回避（IF、IFERROR）	
12回	学習成果	関数を使って別表を参照し、結果を表示できる。また演算の結果がエラーになった場合の回避処理ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、VLOOKUP、IF や IFERROR について理解を深める。	
13回	授業内容	Excel (6)：(復習) 課題作成	
	学習成果	Excel (4)～(5) での授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	別表を参照する関数の使い方とエラー回避の方法、スパークライン、条件付き書式の操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
	授業内容	Excel (7)：ピボットテーブル（データの集計）	
14回	学習成果	ピボットテーブルで大量のデータをクロス集計できる。元データ修正に伴うデータの更新ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ピボットテーブルを使ったデータの集計・分析方法について確認する。	
15回	授業内容	まとめ	確認試験 全15回の学習内容について理解し、正しく操作できるかを問う。第15回の授業内に実施。
	学習成果	自由なレイアウトの文書、長文レポート等、応用的に Word を利用することができる。関数やデータベース機能等、応用的に Excel を利用することができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全般について、整理、確認する。	

科目名	海外文化研修				担当者	齋藤美香・山本信						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って調査することができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。										
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。										
	④	海外での研修活動に際し、自己管理と危機管理を意識し行動することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、研修地で実践できる。（専門的学習成果①②③④に連動）										
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に交流・行動することができる。（専門的学習成果③④に連動）										
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな視点で協働することができる。（専門的学習成果②③に連動）										
授業概要	海外にて3～5日間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、状況に応じては国際交流活動やボランティア活動にも取り組んでみたい。 授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として現地の調査、旅券申請手続き、語学学習などを行い研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。								
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。								
研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1・2年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。 研修参加費用として約20万円を予定している。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。 ③受講者が20名に満たない場合は中止とする。また、外務省により安全への注意が促された場合にも、実施を見送る。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
	2回	授業内容 申請等の手続き、スケジュールの説明	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	3回	授業内容 申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	4回	授業内容 異国の文化 ①歴史と発展	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	5回	授業内容 異国の文化 ②現代と経済	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	6回	授業内容 専門研修の概要	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	7回	授業内容 専門研修の準備 語学学習	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	8回	授業内容 最終案内・確認	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	9回	授業内容 研修 第1日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
学習成果	計画されている研修内容を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	10回	授業内容 研修 第2日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
学習成果	計画されている研修内容を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	11回	授業内容 研修 第3日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
学習成果	計画されている研修内容を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	12回	授業内容 研修 第4日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
学習成果	計画されている研修内容を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	13回	授業内容 研修 第5日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
学習成果	計画されている研修内容を実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	14回	授業内容 研修報告書の作成	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
学習成果	研修内容を振り返ることができる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	15回	授業内容 研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
学習成果	研修内容について発表できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	

科目名	暮らしの中の憲法				担当者	三 森 敏 正						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		教務課を通して連絡										
専門的 学習成果	①	国家と憲法の間を関係し、説明することができる。										
	②	憲法の意味を理解し、論じることができる。										
	③	立憲主義について理解し、説明することができる。										
	④	幸福追求権・法の下での平等について理解し、説明することができる。										
	⑤	新しい人権について理解し、論じることができる。										
	⑥	自由権・社会論を理解し、論じることができる。										
	⑦	基本的人権と統治論の関係を理解し、論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	憲法の意義を理解し、基本的人権に配慮した社会生活を送ることができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
	(2)	新たな問題に関して、基本的人権の観点から対処できる。(専門的学習成果の④に関連)										
	(3)	自由権、社会権を理解し、状況に応じて国家、地方自治体への要請などができる。(専門的学習成果の⑥⑦に関連)										
	(4)	人として生きる意味を理解し、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
授業概要	日本国憲法を取り巻く状況は、今世紀に入ってから急激に変化している。そのため、未来志向の議論をすすめることは大切である。本講義においては、他の法律との関係も重視しながら、教育の現場で働くことの注意点についても解説していきたい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、評価を行う。								
		レポート	10	Rシートについて評価を行う。								
		平常点	10	積極的に授業へ取り組み意欲や態度について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	棟居快行・松井茂記 他編		『基本的人権の事件簿 憲法の世界へ 第6版』						有斐閣			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	山下・宇賀 代表		『ポケット六法 令和3年版』						有斐閣			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書・六法は必ず持参すること。授業中の態度も評価する。 ②ノートは必ず取ることが大切である。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	立憲主義	毎回理解度と質問等を記載するRシートを配布・回収する
	学習成果	立憲主義を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	立憲主義を理解する。	
	学習成果	立憲主義を理解する。	
2回	授業内容	日本国憲法の成立	
	学習成果	日本国憲法の成立過程を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	日本国憲法の成立過程を理解する。	
	学習成果	日本国憲法の成立過程を理解する。	
3回	授業内容	日本国憲法の基本原理	
	学習成果	日本国憲法の基本原理を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	日本国憲法の基本原理を理解する。	
	学習成果	日本国憲法の基本原理を理解する。	
4回	授業内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権	
	学習成果	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
	学習成果	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
5回	授業内容	新しい人権、自己決定権	
	学習成果	新しい人権、自己決定権を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	新しい人権、自己決定権を理解する。	
	学習成果	新しい人権、自己決定権を理解する。	
6回	授業内容	治療拒否と自己決定権	
	学習成果	治療拒否と憲法との関係を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	判例を分析する。	
	学習成果	判例を分析する。	
7回	授業内容	夫婦別姓と自己決定権	
	学習成果	夫婦別姓と憲法との関係を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	判例を分析する。	
	学習成果	判例を分析する。	
8回	授業内容	プライバシー権	
	学習成果	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
	学習成果	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
9回	授業内容	法の下での平等	
	学習成果	法の下での平等を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	判例を分析する。	
	学習成果	判例を分析する。	
10回	授業内容	精神的自由、思想・良心の自由	
	学習成果	精神的自由、思想・良心の自由を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	判例を分析する。	
	学習成果	判例を分析する。	
11回	授業内容	信教の自由、学問の自由	
	学習成果	信教の自由と学問の自由を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	信教の自由と学問の自由を理解する。	
	学習成果	信教の自由と学問の自由を理解する。	
12回	授業内容	表現の自由	
	学習成果	表現の自由を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	表現の自由を理解する。	
	学習成果	表現の自由を理解する。	
13回	授業内容	経済的自由権	
	学習成果	経済的自由権を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	経済的自由権を理解する。	
	学習成果	経済的自由権を理解する。	
14回	授業内容	人身の自由	
	学習成果	人身の自由を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	人身の自由を理解する。	
	学習成果	人身の自由を理解する。	
15回	授業内容	社会権	
	学習成果	社会権を理解する。	
予習復習 の内容	授業内容	社会権を理解する。	
	学習成果	社会権を理解する。	

科目名	経済のしくみ				担当者	エ 衛 ト 藤 ソ ノ 総 イ チ						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	市場のしくみを理解し説明できる。										
	②	市場経済における企業行動を理解し説明できる。										
	③	政府の役割を理解し論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	経済のしくみを理解し社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	経済的諸問題について判断力を有し主体的行動をとることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	私たちの暮らしは経済活動と深く結びついており、経済を見る目を養っておく必要がある。どんな経済現象にも基礎に共通する原理がある。この基礎原理を知ることが現実の経済問題を解く第一歩となる。市場のしくみ、市場経済における個人・企業の行動、政府の果たすべき役割について理解し、それらの経済活動と私たちの生活の関係を考える。需要と供給、企業戦略、貿易・為替、金融財政政策など経済の基礎知識や最新の経済ニュースも取り上げて説明する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	経済のしくみを理解した上で、自分なりのテーマを見つけて論じられているかを評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)	専門的学習成果①②③で評価を行う。										
	(2)	専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	岩田規久男		『経済学を学ぶ』				筑摩書房					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストに目を通し、日頃から新聞・テレビ・ネットなどで経済についての報道に関心を持っておく。(45時間) ②講義内容に関するレポートを作成する。(15時間) ③レポートについては講義内フィードバックを基に理解を深めていくこと。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	価格をめぐって	授業の態度・関心を評価
	学習成果	価格決定のメカニズムを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	価格による分配について理解を深める。	
2回	授業内容	経済学の考え方の特徴	
	学習成果	経済学が想定する行動原理を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	私たちがどのように行動を決定しているか理解を深める。	
3回	授業内容	合理的行動	
	学習成果	経済学でいう合理的行動とは何か説明できる。	
	予習復習 の 内 容	私たちは経済学の想定する合理的消費者といえるか考えてみる。	
4回	授業内容	交換と市場	
	学習成果	市場経済の特徴を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	社会主義国について調べておく。	
5回	授業内容	特化	
	学習成果	専門化の利益について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現代社会における専門化について理解を深める。	
6回	授業内容	交換と分業	
	学習成果	交換と分業の必要性について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	交換を成立させる原理について理解を深める。	
7回	授業内容	貨幣・銀行・商人・市場	
	学習成果	効率的に交換を行うための様々な制度について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	それぞれの制度の重要性について理解を深める。	
8回	授業内容	比較優位	
	学習成果	職業選択や国際分業の原理を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現実における比較優位の原理について考えてみる。	
9回	授業内容	価格と資源配分	
	学習成果	価格によって様々な資源配分が決定されていることを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	市場が決定するものについて理解を深める。	
10回	授業内容	価格と希少性	
	学習成果	価格の決まり方について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	価格が希少性を反映する場合・反映しない場合の結果を考えてみる。	
11回	授業内容	需要と供給	レポート提出
	学習成果	需要と供給の概念について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	需要・供給・価格の関係について理解を深める。	
12回	授業内容	競争的市場	
	学習成果	競争的市場とその利点について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現実社会の中で市場の果たす役割について理解を深める。	
13回	授業内容	不完全競争市場	
	学習成果	不完全競争市場における企業行動について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	企業の様々な戦略について理解を深める。	
14回	授業内容	自然的秩序形成	
	学習成果	市場の自然に秩序を形成するメカニズムについて説明できる。	
	予習復習 の 内 容	自然的秩序形成に対する否定的意見も含めて理解を深める。	
15回	授業内容	市場の失敗と政府の役割	
	学習成果	市場がうまく機能しない場合と政府の役割について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	経済政策などについて理解を深める。	

科目名	暮らしと科学				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	科学的思考方法を説明できる。										
	②	普段の生活に科学が活用されていることを述べることができる。										
	③	科学的な観察眼や論理的思考方法に基づき行動できる。										
	④	「疑似科学」を見分けられるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	これまで学んできた科学の知識を総合的に実生活で活用できる。(専門的学習成果の①～④)										
	(2)	科学・技術の発展について自ら総合的に判断し、主体的に社会生活に活かす事ができる。(専門的学習成果の①～④)										
	(3)	論理的・客観的な思考を意識することで、他者の考え方を尊重し主体的行動をとりながら協働することができる。(専門的学習成果の①～④)										
授業概要	「科学」とは、生きるための基本的知識である。普段のあたりまえの行動も、日常生活で目にしていないなんでもない事でも、科学の目をもって見れば意外な発見があります。知らずに過ごしているなんでもつたない。ちょっとした気付きでこれまでと違った風景が見えてきます。また、知って得する豆知識、毎日の生活の中でふと疑問に思ったこと、ニュースで話題になった技術や医療等、科学的出来事など、毎回の小レポートをもとに授業を展開します。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	最終課題レポートとして講義内容に関連した課題を用意する。話題の選択、文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		小レポート	20	10回以上、小レポートを提出すること。書き方については授業中に説明する。								
	平常点	30	受講の態度、関心、意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)～(3)は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回、主にその週に起きた科学的・技術的課題について、関心を持ったこと、また、日頃の生活で疑問に感じた事や気づいた事を、小レポートとして提出してください(事前準備として週に3時間程度)。それをもとに授業を展開します。参加型の授業展開を行うので、積極的に参加していくこと。授業後には、1時間程度、振り返っての考察を行ってください。 ②小レポートや最終課題レポートは適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス (授業の進め方と小レポートについて)	毎回、その日の科学的な話題や小レポートの内容に基づいた対話を行い評価する。 最終課題レポートを課し評価する。
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
2回	授業内容	日常生活と科学、科学的思考ということ	
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
3回	授業内容	化学反応について	
	学習成果	化学反応の概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
4回	授業内容	エネルギーについて	
	学習成果	エネルギーの概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
5回	授業内容	原子・素粒子・宇宙の起源	
	学習成果	原子・素粒子・宇宙の起源の概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
6回	授業内容	宇宙と生命	
	学習成果	宇宙と生命について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
7回	授業内容	生物の進化ということ	
	学習成果	生物の進化について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
8回	授業内容	遺伝子とバイオテクノロジー	
	学習成果	遺伝子とバイオテクノロジーについて概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
9回	授業内容	生命科学について・基本	
	学習成果	生命科学について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
10回	授業内容	生命科学について・応用	
	学習成果	生命科学の応用について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
11回	授業内容	日本の醸造食品の話 (日本酒醸造を中心として)	
	学習成果	日本の醸造食品について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
12回	授業内容	海と環境	
	学習成果	海と環境について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
13回	授業内容	環境汚染と汚染物質	
	学習成果	環境汚染、汚染物質について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
14回	授業内容	ITの話	
	学習成果	ITの話について概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		
15回	授業内容	最近の話題・まとめ	最終回、これまでの科学的な話題や小レポートの内容に基づいた対話を行う。
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。		

科目名	環境と自然				担当者	髙 田 淑 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。メールでの問い合わせに応じる。										
専門的 学習成果	①	現代科学における自然観・宇宙観を理解し、概要を説明できる。										
	②	地球生態系としての自然環境を理解し、社会の在り方について討議できる。										
	③	日常生活の中での科学技術に関する諸問題を考察し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広い教養を身につけ、将来にわたり好奇心を持ち続け、身の周りの現象について思考し、探求することができる。(専門的学習成果の①②)										
	(2)	現代社会における科学技術と関連する様々な課題について、主体的に判断し社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果の②③))										
授業概要	私たちの住む地球は、宇宙の中の太陽系の一つの惑星であり、人類の生存に適した環境を保持している。この地球上に暮らす私たち人類が、どこからきたのか、何者か、そしてどこへ向かうのかを、宇宙という大きな枠組みの中で科学的に考える。また、太陽系の中の地球について学習し、地球の形成から進化の過程を学び、地球環境の変遷について考える。特に、気候変動、地震・津波などの自然現象を科学的見地から理解し、オゾンホールの拡大や二酸化炭素の増加等、人類が地球に与える影響の意味を探り、我々の暮らしに還元する。さらに、我々人類が、地球の進化の過程における生物進化の帰結であることを理解した上で、地球生態系システムの視点から、地球環境との関わりを考察し、生物多様性や生態系保全の重要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	講義の展開に応じて、内容の理解を問うレポートで評価を行う。								
		平常点	20	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
	筆記試験	20	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、講義全体の内容理解について評価を行う。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名			出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名			出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習として、講義内容のテーマについて、理解に努めること。特に、関心をもった点や疑問点を整理しておくこと（予習：週2時間程度）。事後学習としては、紹介する文献等を参考にしながら、課題のレポートを記述すること（復習：週2時間程度）。テキスト参考書は授業の中で紹介する。 ②フィードバックとして、レポート回収後に、内容と評価について解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：講義の内容とねらい	各回におけるレポート（例えば、宇宙の進化に関する問いについて）	
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学修計画を立てる。		
2回	授業内容	宇宙の進化Ⅰ 太陽系の構造		
	学習成果	太陽系の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系の構造について調べ、整理しておく。		
3回	授業内容	宇宙の進化Ⅱ 太陽系の形成と進化		
	学習成果	太陽系の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系について調べ、整理しておく。		
4回	授業内容	宇宙の進化Ⅲ 銀河系と星の誕生と死		
	学習成果	銀河系における星の誕生と死の過程を説明できる。		
	予習復習の内容	銀河系・恒星について調べ、整理しておく。		
5回	授業内容	宇宙の進化Ⅳ 宇宙の始まりから銀河形成まで		
	学習成果	膨張宇宙において銀河が形成される過程を説明できる。		
	予習復習の内容	宇宙に関して調べ、整理しておく。		
6回	授業内容	地球環境Ⅰ 地球の構造	各回におけるレポート（例えば、気候変動について）	
	学習成果	地球の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の構造について調べ、整理しておく。		
7回	授業内容	地球環境Ⅱ 地球の形成と進化		
	学習成果	地球の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の進化について調べ、整理しておく。		
8回	授業内容	地球環境Ⅲ 地球大気と海洋		
	学習成果	現在の地球の大気と海洋について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の大気と海洋について調べ、整理しておく。		
9回	授業内容	地球環境Ⅳ 地球大気の進化（酸素の変遷と二酸化炭素量の増加）		
	学習成果	地球大気の組成の変遷について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	大気の組成の変遷について調べ、整理しておく。		
10回	授業内容	地球環境Ⅴ スノーボールアースと気候変動		
	学習成果	地球における気候変動について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球における気候変動について調べ、整理しておく。		
11回	授業内容	地球環境Ⅵ 自然災害の科学		
	学習成果	地球上でおきる災害を、科学的な観点から説明できる。		
	予習復習の内容	地震・津波・台風等の気象現象など自然災害について、整理しておく。		
12回	授業内容	地球生態系Ⅰ 生命の起源と進化	各回におけるレポート（例えば、地球の生態系について）	
	学習成果	原始地球における生命の起源について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	原始地球における生命の起源について、整理しておく。		
13回	授業内容	地球生態系Ⅱ 生命の進化と生物多様性		
	学習成果	「ヒト」までの人類の進化と、生物多様性について説明できる。		
	予習復習の内容	生命の進化と生物多様性に関して調べ、整理しておく。		
14回	授業内容	科学技術と私たち		
	学習成果	科学技術と私たちについて考察し、自己のあり方に反映できる。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		
15回	授業内容	筆記試験		筆記試験（全15回分の内容を問う）
	学習成果	環境と自然について理解し、自己の地球観・SDGsの考え方を養う。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		